

栗本 智代 大阪ガスエネルギー・文化研究所主席研究員

「まち歩き」がブームになつてゐる。地元に詳しいガイドが、食やものづくりなど、まちの魅力を紹介するイベントだ。

大分・別府で、観光客を引き留めるため、地元の人が案内したのが評判になつた。まち歩きを楽しむ「長崎さるく博」が2004年に開かれて一気に広まつた。大阪でも「大阪あそ歩」が08年から続く。

まちを歩くと、建物や食べ物など、地域資源である「お宝」に出会える。案内人や観光客、地元の人らがつながり、まちの魅力が口コミなどを通じて発信されるようになる。

関西は歴史や文化的な資産に恵まれている。「まち歩き」で魅力を感じ取れる、まちづくりを目指したい。

かんさい輝く時  
創る力

## まち歩き 地元再発見



おしゃれなイメージで憧れの場所になつてゐる。一方で、大阪は文化や歴史を生かし切れていない。

大阪には、まちの歴史を伝える近代建築や街路がある。人々の喜怒哀楽に彩られた物語も数多く残る。だが行政も住民も地域資源としての認識が足りない。まちの魅力の発信力が弱いのもこのためだろう。

**くりもと・ともよ**  
奈良女子大学政学部卒。大阪ガスに入社し、91年から未来の生活や社会を考える研究所活性化角書く工エネルギー・文化研究所研究員を務め、関西魅力を全国的に探り続けてきた人。49歳。

市は多い。まちの文化や歴史を掘り起こし、伝承していく必要がある。

そんな思いから、大阪ガス

エネルギー・文化研究所の「語りベシアター」で、歴史や文化を音楽と語りで物語に仕上げて公演している。愛情を持ててまちを見つめれば誇りをもてる。まちづくりで何を大事にするか、問題意識も生まれる。

同様の課題を抱えている都

育てる活動を広げることが大切だ。大阪城近くの空堀商店街では、地元の人々や移り住んだ若者らが、戦前からの趣のある雰囲気を守ろうと、町家や長屋の改修に取り組んでいる。アートイベントなども手がけたところ、注目を集めようになり、にぎわいを取り戻した。

「わがまち再発見」という感じで、まず、地元を知る活動に加わってもらう。そのまちにどんな歴史があり、どんな人がいて、どんな交流の場があるかななど、ここにしかない、行つてみたくなるような情報を様々な手法で発信する。

遠来の友人にとっておきの話を披露するようにまちを語れば、活動への理解者も増え、まちの魅力を次世代に伝える力にもなる。

(聞き手・戸田博子)